



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立手稲宮丘小学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

■立ち寄りやすい学校図書館

本校の学校図書館は、地域開放図書館「アカゲラの森」としても、司書の方やボランティアの皆さんに、児童の読書活動が充実するようご尽力いただいています。司書の方や図書委員がスタンプカードを押したり、季節のおすすめの本が手に取りやすいところに並べてあったりと、児童が図書館にたくなる工夫がなされています。

また、物語に親しむ機会として山の手図書館「おはなしかご」の皆さんによる「おはなし会」も実施していただいています。

また、図書委員会もより多くの児童が図書館を利用しやすいように、毎日中休み・昼休みに貸出し当番を行っています。

今年度は10月から11月にかけて、自分で読んだ図書館の本のイラストを募集する「イラスト大会」を実施しました。そして、図書館に親しみをもってもらおうと、図書館クイズや人気の本ランキングをお昼の放送で流しています。

このような取組により、本校の図書館は、本を借りる児童で休み時間は行列になったり、静かに席に座って本を読んだりする様子が多く見られます。

学習センターとしての機能

■教科学習とのつながり

6年生の国語「やまなし」では、寄託図書や図書館にある宮沢賢治が書いた物語の並行読書を行うことで、児童はより作品世界への理解を深めていました。また、図書館には教科書に出てくる本コーナーも設けており、学習したことに関連した本も探しやすくなっています。

また1学期には、先生方に各学年の学習で必要そうな本の購入希望をとり、学習に必要な本の整備を進めています。

■すぐ手に取れる辞書・辞典

3年生以降は、学習の中で辞書などを用いる機会が増えていきます。そのため、国語辞典や漢字辞典などを移動式書架上に載せ、教室の近くに常設しています。こうすることで、図書館に行かなくても、分からない言葉や漢字などはすぐに調べることができます。また、辞典や辞書を引くという作業にも慣れることができます。

情報センターとしての機能

■図書館の利用指導

どの学年も、4月に図書館の利用の仕方を学習します。図書館の過ごし方や借り方・返し方のルールを振り返るとともに、国語の学習と関連させながら、学年によっては分類記号も学びます。それによって、自分で何かを調べるときに本を活用する際、どれを選び取るか考えるためのヒントにすることをねらっています。



↑教科書の本コーナー
6年生の国語「やまなし」の学習展示→